

企画展示

# 知識を 世界に 求めて

明治維新前後の  
翻訳事情



企画  
展示

# 知識を 世界に 求めて

明治維新前後の  
翻訳事情

第1章 オランダを通して世界をのぞく

第2章 開国期における西洋知識の移入

第3章 西洋知識の受容と近代化

第4章 翻訳文学の歩み

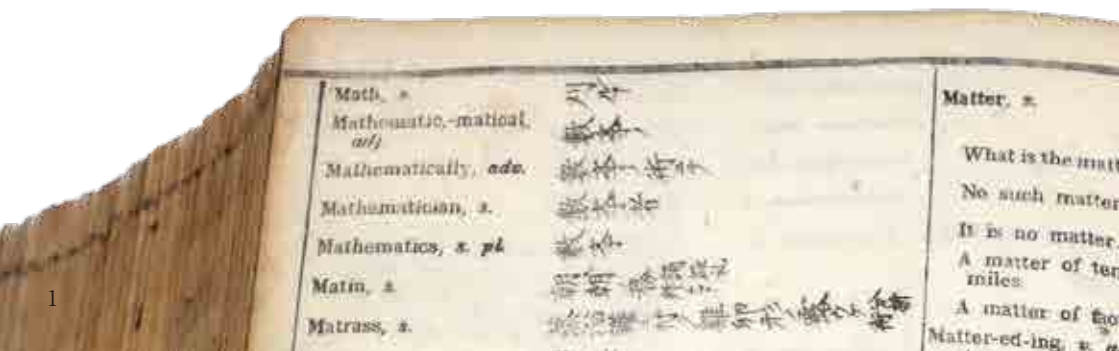
会場： 国立国会図書館東京本館 展示室（新館1階）

会期： 令和4年11月11日（金）から12月9日（金）まで

※日曜、祝日及び資料整理休館日を除く。

10:00～19:00（土曜日は10:00～18:00）

- ・このパンフレットは、令和4年度国立国会図書館企画展示の主な構成と展示資料を紹介するものです。
- ・【 】内は国立国会図書館請求記号です。
- ・掲載した資料の原本の閲覧には、許可申請が必要な場合があります。古典籍資料は、来館前に別途閲覧予約も必要です。また、代替資料（デジタル化資料・マイクロ資料）がある場合は、代替資料をご利用いただきます。



## はじめに

日本では、江戸時代の「鎖国」政策の下、限られた窓口から海外情報を入力する時代が長く続きましたが、幕末の開国、そして明治維新という激動の時代に、先人の豊かな好奇心と奮闘により、西洋の知識を広く求め、それらを受容しつつ、近代化につなげていきました。今回の展示は、その歩みを「翻訳」という営為を通じてたどり、異文化理解や知的活動において、翻訳が果たしてきた意義や役割を紹介しようとするものです。

今回は、時代の潮流に関わりの深い、あるいは社会に大きな影響を及ぼした中国や西洋諸国の原書及びその翻訳書を中心に、約 200 点の資料を展示しております。第 1 章から第 3 章までは西洋知識の移入と受容の歴史を概観し、第 4 章ではおおむね明治時代前期までの翻訳文学の歩みを振り返ります。

さて、近年、インターネットを通じた情報入手が容易になり、機械翻訳技術も目覚ましく発展し、世界から知識を求める方法は大きく変貌していますが、異なる言語と言語を媒介する手段が必要であることに変わりはありません。この企画展示を通じて、「翻訳」が世界に向けて開かれた幾つもの「窓」となって、新しい知識の蓄積と普及において果たしてきた歴史的役割について、理解を深めていただくことができましたら幸いです。



# 第1章

## オランダを通して世界をのぞく

江戸幕府は禁教と貿易統制を目的として、寛永16（1639）年にはポルトガル船の来航を禁止、寛永18（1641）年にはオランダ商館を長崎の出島に移し、いわゆる「鎖国」体制を確立しました。「鎖国」体制下でもオランダ、中国との交易や朝鮮、琉球との通信は続けられ、特に唯一の西洋国家であるオランダがもたらした文物は、我が国が近代的な西洋知識を得るための貴重な情報源となりました。

オランダを通じて入手した蘭書は、暦を司る幕府の天文方やオランダ通詞（通訳官）、蘭学者らの限られた知識人たちによって翻訳されました。一方で、蘭学による幕政への影響を警戒し、幕府は蘭書の翻訳出版を厳しく規制していました。

我が国で蘭学が隆盛した18世紀後半から19世紀半ばにかけて、西洋諸国では市民革命や産業革命が起こり、近代化が進んで世界情勢が大きく変化した時代でした。

本章では、オランダを通して見た世界、そして世界から見た日本、これらを紹介した蘭書の翻訳書などを紹介します。

11. De beschrijving van Japan  
1729 【蘭-668】





1. 解体新書 4 巻序図 1 巻  
キュルムス 著〔前野良沢〕・杉田玄白翼 訳 中川淳庵鱗 校  
桂川甫周世民 関 小田野直武 画 須原屋市兵衛  
安永 3 (1774) 年 【わ 490.9-15】



5. 英文鑑 (天文方渋川家関係資料)  
渋川敬直 述 藤井質 訂補 写【WB32-4】



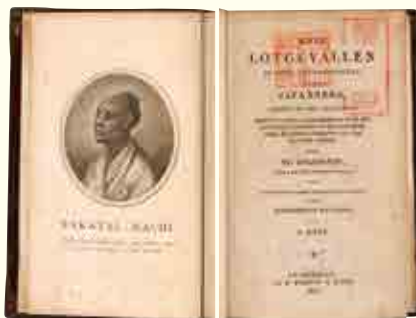
7. 新撰地誌  
写【寄別 14-2】



8. 新釈輿地図説  
渡辺華山 写【WA21-5】



12. 鎖国論訳解 (中古叢書 81-83)  
ケンペル 著 志筑忠雄 訳 写【わ 081-9】



15. Mijne lotgevallen in mijne gevangenschap  
bij de Japanners, gedurende de jaren 1812 en  
1813  
Dordrecht : A. Blussé 1817-1818 【蘭 -652】



## 第2章 開国期における西洋知識の移入

19世紀に入ると、西洋諸国によるアジア進出が始まり、我が国を取り巻く国際環境に大きな変化が生じました。アヘン戦争（1840～1842年）によって中国がイギリスに敗れるとの報は、幕府に大きな衝撃と危機感を与えました。嘉永6（1853）年のペリー来航、その翌年の日米和親条約締結によって我が国は開国し、約200年間にわたる「鎖国」体制に終止符を打ちました。

開国により、翻訳の対象は、それまでの長崎・出島経由の限定的な情報から、西洋の脅威に対抗するための、西洋についての広範な情報へと変わっていきます。言語はこれまでのオランダ語中心から次第に英語、フランス語などへと移行していき、分野もまた、海外事情に関するより新しい情報や兵学、国際法などに広がっていきました。

交渉相手としての西洋に関する情報の必要性からも、幕府は安政3（1856）年に、広く洋学者を集めるとともに人材の育成を目的として、直轄の翻訳機関である蕃書調所<sup>ばんしょしらべしょ</sup>を設立しました。

本章では主に、漢訳洋書（洋書を中国語訳したもの）を含む漢籍や蘭書を取り上げつつ、開国・幕末期の翻訳活動を紹介します。



25. 瀛環志略 卷1,3  
徐繼畲 著 井上春洋等 訓点  
文久元（1861）年  
【W996-N1311】



22. 海国図志 卷 39  
〔魏源〕編 写【穴戸機関係文書（その2）279】



24. 瀛環志略 10 卷  
徐繼畲 著 井上春洋等 訓点 米津清平 文久元  
(1861) 年【W996-N1341】



38. 和蘭官軍之服色及軍装略図  
セウブケン 著述 山脇正民 訳 村上文成 画 安政 5  
(1858) 年【W442-30】



47. バタヒヤ新聞 卷 11 (1861 年 10 月 5 日)  
〔蕃書調所〕編訳 老臣館【WB43-82】

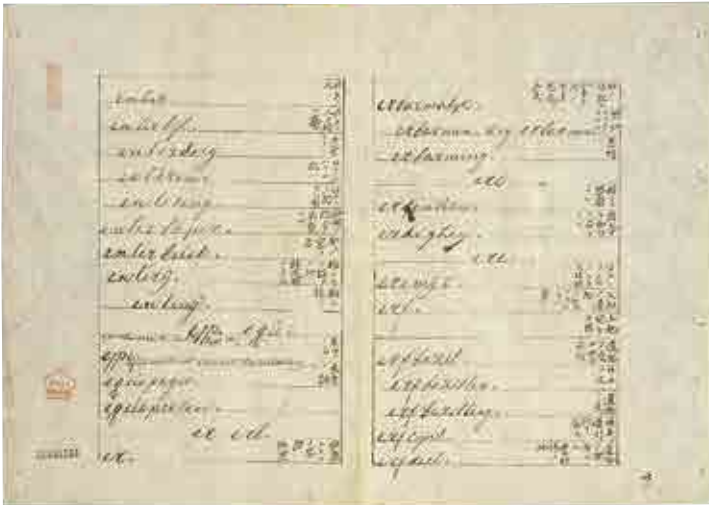


50. 万国公法 卷 4  
惠頓 撰 丁膳良 訳 萬屋兵四郎 (江戸時代末期)  
【W651-N5】



54. Volkenregt 万国公法 (蘭文)  
文久 3 (1863) 年頃 写【津田真道関係文書 3】

# 翻訳に欠かせない辞書類



27. ハルマ辞書  
[高野長英] 写  
【YR-N80】



28. 和蘭字彙  
道氏 訳 月池ほか 校 山城屋佐兵衛 安政 5 (1858) 年  
(跋刊) 【蘭 -96 ~ 107】  
(裏表紙画像)



30. 英和对訳袖珍辞書  
Hori Tatsnoskay 編 Horikosi Kamenoskay 増補  
開成所 慶応 3 (1867) 年 【W57-N13】  
(表紙画像)



32. 仏語明要 4 巻  
村上英俊 著 達理堂 元治元 (1864) 年 【W142-65】

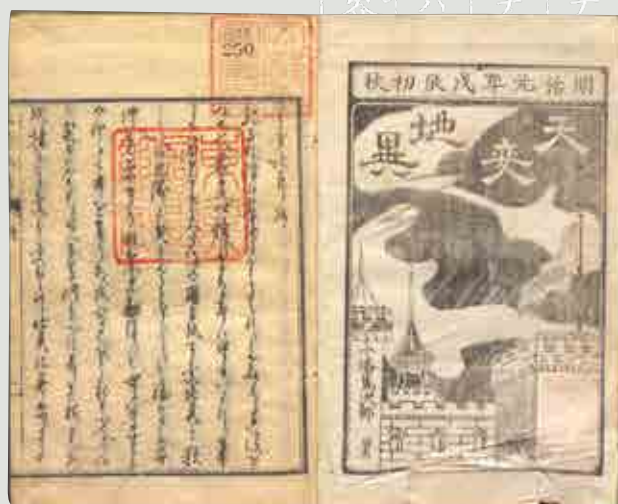


# 第3章 西洋知識の受容と近代化

慶応3（1867）年の大政奉還、そして王政復古の大号令によって、新たに明治政府が発足します。新政府は我が国の近代化を目指し、「富国強兵」のスローガンを掲げて諸々の制度改革を推し進めていきます。このため、海外留学生や使節団を派遣し、また、いわゆるお雇い外国人を招いて、西洋の知識を吸収していきました。

一方で、広汎な西洋の書物の輸入が可能となり、文明開化の機運にのって、西洋の文化や思想、自然科学などを紹介した翻訳書が多く出版されました。こうした翻訳書の一部は、明治5（1872）年の学制に基づく近代教育において、教科書としても使用されました。また、西洋の最新技術を紹介した翻訳書は我が国の産業の近代化に貢献しました。

さらに、翻訳書を通じた西洋思想の広まりは自由民権運動に大きな影響を与えました。憲法の制定に代表される法制的整備においても翻訳の役割は重要でした。



リベルティ 自由之理 トイヘル語ハ  
イヲフゼ ウイル 主意ノ自由 思想  
ハ。スイロツスイカル 子セスシテイ 不得  
コレ等ノ譯後人 トイヘル 反  
改正ヲ待ツ  
書ニ論ズルモノニ非ズ。此  
74. 天変地異  
小幡篤次郎 訳 慶応義塾  
明治元（1868）年  
【202-242】

## 西洋の文化・思想とその啓蒙



59. 西洋事情 初編巻之1  
福澤諭吉 纂 岡田屋嘉七等 明治3 (1870) ~ 5  
(1872) 年 【290-H826s2】



百学連環覧書 【西周関係文書 18】  
(パネル展示)

## 自然科学・技術の啓蒙



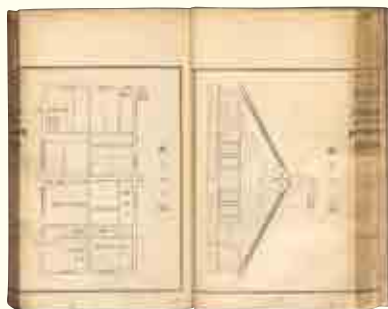
79. 啓蒙知恵の環 地  
瓜生於菟子 訳述 和泉屋吉兵衛 明治5 (1872) 年  
【031.7-Ke116-U】



82. 博物新編訳解 巻之4 鳥獸略論  
合信 著・大森惟中 訳 青山清吉 明治2 (1869)  
~ 3 (1870) 年 【特 38-95】



84. 格物入門和解 初編 水学之部 下巻  
丁麴良 著・柳河春蔭等 解 北門社 明治3 (1870) 年  
【特 37-351】



87. 西洋家作ひながた  
シー・プリュス・アルレン 著・ウキール・ジョン 増補・  
村田文夫 山田貢一郎 訳 玉山堂 明治5 (1872) 年  
【7-136】

## 知識の体系化—翻訳教科書と百科全書—



98. 修身論 前篇 1  
フランシス・ウェーランド 著・阿部泰蔵 訳 文部省  
明治 7 (1874) 年 【Y994-J12160】



105. 小学読本 巻 1  
師範学校 原編・田中義廉 編・那珂通高 校 文部省  
明治 7 (1874) 年 【特 34-969】



112. Chambers's information for the people. New ed.  
edited by William and Robert Chambers W. & R.  
Chambers [18--?] 【70-8】



113. 百科全書 動物綱目篇  
ウィルヘルム・チャンブル・ロベルト・チャンブル 編・  
永田健助 訳 文部省 明治 9 (1876) ~ 16 (1883)  
年 【特 29-365】

## 近代国家の形成に向けて



115. 自由之理 第 1 冊  
弥爾 著・中村敬太郎 訳 木平謙一郎 明治 5 (1872) 年  
【特 39-274】



127. 国法汎論 首巻  
ヨハン・カスパルト・プレンチュリー 著・加藤弘之 訳  
文部省 明治 5 (1872) ~ 7 (1874) 年 【特 56-80】

## 第4章 翻訳文学の歩み

我が国は古くから中国文化の影響を受けてきました。

漢文（中国語）を日本語の文脈に直して読む漢文訓読法は、日本人が創った簡易な翻訳方法であり、その長い実践の歴史を通じて日本人が慣れ親しんだ言語形式となりました。そして、漢文訓読法由来の語法や漢語を多用した文体は漢文訓読体と呼ばれており、開国期からの数多くの西洋文献を翻訳するに当たっても、この漢文訓読体が多く使われました。

西洋文学の翻訳においても、漢文訓読体を基調としつつ、明治20年代までの動きに注目すると、翻訳態度・訳出法やジャンルの変化とともに、多様な文体が見られるようになります。なかでも、明治20年代頃からのいわゆる「言文一致運動」の開始とともに口語体の翻訳が登場します。



166. 魯敏孫漂流記：絶世奇談  
ツーフラー 著・井上勤 訳 博聞社  
明治16（1883）年【特70-521】



146. 繡像水滸銘々伝 初編  
江境菴花川 編 月岡芳年 筆 小田原屋弥七 慶応 3  
(1867) 年 (序刊) 【W142-20】



157. 花柳春話：欧洲奇事  
ロウド・リトン 著・織田純一郎 訳 坂上半七 明治  
11 (1878) ～ 12 (1879) 年 【特 13-594】



165. 九十七時二十分間月世界旅行  
ジュールス・ヴェルネ 著・井上勤 訳 黒瀬勉二ほか  
明治 13 (1880) ～ 14 (1881) 年 【31-160】



184. 緊思談：諷世嘲俗 初編  
李頓 著・美郷 画・藤田茂吉 尾崎庸夫 合訳 藤田茂吉  
明治 18 (1885) 年 【933-cL99k-H】



190. 十五少年  
ジュールス・ヴェルネ 著・森田思軒 訳 博文館  
明治 29 (1896) 年 【74-24】



197. 小公子  
バアネット 著・若松賤子 (岩本嘉志子) 訳 明治 24  
(1891) 年 【特 28-634】



## 翻訳文体の変遷

### 『花柳春話』 漢文訓読体の風格ある訳文

天氣晴朗トシテ樹木鬱葱、薫風颯々トシテ菜花黃波ヲ揚グ時恰モ五月ノ中旬ニ  
シテ夏猶ホ未ダ暑カラズマルツラバース單騎ニ雅遊ヲ試ント欲シ野徑ニ逍遙シ  
夏 山ノ風景ヲ觀望ス會、遙カニ一群ノ騎隊砂ヲ蹴ツテ来ルヲ認ム

### 『通俗花柳春話』 読みやすく訳し直された七五調の訳文

ひさかた あまつそら はれわた き マ わかば かげあお のすえ おく そよかせ ののはなうご そのさま  
久方の天津空ねは晴旦り樹木の弱葉は陰青く野末を送る南風に菜花動く其景は  
こがね なみ あぐ ごと ころ さつき なかば なつなほいま あつ  
黄金の波を揚るが如し頃しも五月の中旬にて夏猶未だ暑からねばマルツラバ  
こま うちのりあたり めいしきうせき さぐ ただひとり こま あゆみ まか  
スは児馬に打騎四方の名所旧跡を探らんものと唯單騎児馬の歩足に任せつゝ  
のみち けしき ながめ いへぢ いちりあまり はなれ そりからむかふ ひとわれ きばすな けた  
野徑の景色を長視ながら家路を一里余ほど離し打柄向より一群の騎馬砂を蹴立  
て此方を指て来るを見る

### 『探偵ユーベル』 翻訳王・森田思軒による原文に忠実な周密文体

昨日、一千八百五十三年十月二十日、余は常に異なりて夜に入り府内に赴けり  
此日余は倫敦に在るショールセルに一通ブラッセルに在るサミュールに一通合  
せて二通の手紙をしたゝめたれば自から之を郵便に出さんと欲せしなり九時半  
の比ほひ余は月光を踏みつゝ、帰り来りて雜貨商ゴスセットの家の前なる隙地  
我々のタプエフラクと呼べる所を過ぐるとき忽ち走せ来る一群の人あり余に近  
つけり

### 『小公子』 絶賛を浴びた若松賤子のなめらかな口語体

セドリツクには、誰も云ふて聞かせる人が有ませんかつたから、何も知らない  
でゐたのでした。

おとつさんは、イギリス人だつたと云ふこと丈は、おつかさんに聞ゐて、知つ  
てゐましたが、おとつさんの没したのは、極く少さいうちでしたから、よく記  
憶して居ませんで、たゞ大きな人で、眼が浅黄色で、頬髯が長くつて、時々肩  
へ乗せて坐敷中を連れ廻られたことの面白かつたこと丈しか、ハツキリとは記  
憶てゐませんかつた。

おとつさんがおなくなりなさつてからは、おつかさんに余りおとつさんのこと  
を云ぬ方が好と云ことは子供ごゝろにも分りました。

# 主要参考文献

## ○翻訳関係

日本近代思想大系 15  
加藤周一 [ほか] 編. 岩波書店, 1991.9 【HA121-E2】  
翻訳の思想 加藤周一, 丸山真男 校注

翻訳と日本の近代 (岩波新書)  
丸山真男, 加藤周一 著. 岩波書店, 1998.10  
【KE26-G25】

著作権法百年史  
文化庁 監修, 著作権法百年史編集委員会 編著.  
著作権情報センター, 2000.3 【AZ-615-G79】

近代日本大出版事業史  
杉村武 著. 出版ニュース社, 1967  
【023.1-Su736k-s】  
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/3044658>

洋学史事典 (日蘭学会学術叢書; 第6)  
日蘭学会 編. 雄松堂出版, 1984.9 【M2-233】

日本をゆさぶった翻訳: 明治から現代まで  
高橋修, 武藤康史 編. 日本近代文学館, 2020.4  
【Y93-M5176】

明治文化全集 第22巻  
明治文化研究会 編. 日本評論社, 1967  
【081.6-M448-M(s)】  
第22巻 翻訳文芸篇  
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2941770>

明治・大正の翻訳史 (研究社選書)  
吉武好孝 著. 研究社出版, 1959 【910.26-Y938m】  
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1345405>

近代日本の翻訳文化と日本語: 翻訳王・森田思軒の功績  
齊藤美野 著. ミネルヴァ書房, 2012.9 【KG421-J8】

明治文学研究 第5 (明治初期翻訳文学の研究)  
柳田泉 著. 春秋社, 1961 【910.26-Y529m3】  
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1344694>

## ○その他、社会状況等

明治政治史 上 (岩波文庫; 38-126-1)  
岡義武 著. 岩波書店, 2019.2 【GB415-M5】

明治大正史 上  
中村隆英 著, 原朗, 阿部武司 編. 東京大学出版会,  
2015.9 【GB415-L25】

明治文化全集 第7巻 (外国文化篇) 改版  
明治文化研究会 編. 日本評論新社, 1955  
【081.6-M448-M(t)】  
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2941780>

明治文化史 第1巻 全14巻 (第14巻が総索引)  
開国百年記念文化事業会 編. 洋々社, 1955  
【210.6-Ka186m2】  
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2996675>

近代日本思想史大系 7  
有斐閣, 1979.12 【121.02-Ki2342】  
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2967818>

日本近代思想大系 1  
加藤周一 [ほか] 編. 岩波書店, 1991.1 【HA121-E2】  
開国 田中彰 校注

日本科学技術史大系 第1巻 (通史 第1)  
日本科学史学会 編. 第一法規出版, 1964  
【402.1-N685-N】  
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1371050>

学制百二十年史  
文部省 [著]. ぎょうせい, 1992.11 【FB14-E133】

日本憲政史  
坂野潤治 著. 東京大学出版会, 2008.5  
【GB411-J16】

日本語の歴史 (岩波新書)  
山口仲美 著. 岩波書店, 2006.5 【KF35-H73】

展示資料のうち、国立国会図書館デジタルコレクションで  
ご覧いただける資料を次のページからご案内しています。

リサーチ・ナビ > 「探す」 ギャラリー

<https://rnavi.ndl.go.jp/jp/gallery/exhibit2022.html>



知識を世界に求めて  
—明治維新前後の翻訳事情—

令和 4 年 11 月 11 日発行

編集・発行：国立国会図書館

〒100-8924 東京都千代田区永田町 1-10-1

03-3581-2331

<https://www.ndl.go.jp/>

